



赤坂見附前田病院は、人間ドック3床を含む計59床の病床を有している。病棟の主任看護師として病棟担当看護師約20名を束ねているのが、主任看護師の上田真莉氏である。上田氏は、同院病棟での看護体制の特徴をつぎのように話す。

「看護部は、一般的な病院同様、外来と病棟とに担当部署が明確に分かれています。当院は急性期の外科がメインなので、入院される患者さんも消化器外科や整形外科の疾病が多いです。他院からの転院の依頼もありますが、基本的には当院に掛かりつけの患者さんの検査、治療目的の入院がほとんどです。そのような観点からも、地域のホームドクター的な役割を果たしている点が大きな特徴と言えます」



電子カルテシステム『MALL』を中心診療情報が一元化されたことで、患情報の収集など、業務の効率化が「とても便利になった」と話す看護部の田真莉子。

■医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院  
**電子カルテシステムの導入で病棟における診療記録を電子化  
情報共有や医療安全、業務の効率化の向上に大きく貢献**

はにおける診療証明を電子化  
化の向上に大きく貢献



電子カルテ端末を操作する前田祐助氏。電子カルテシステム「MALL」はユーザー毎に画面のレイアウトを設定でき、操作しやすいとスタッフから高い評価を得ている。

ケージ型のものと異なり、電子カルテシステム「MALL」は、2600種類以上の設定項目から、当院の運用に必要な機能をコンパクトにまとめる上で、たいへん効果的、無駄のないシステムを構築することが可能で。カルテ画面はユーザーメニューに設定を変更できる上に、オーダーのセントやマスターの管理が容易である点も好ましいですね。当院は非常勤医が多いので、彼らが電子カルテシステムにすぐ習熟できるか若干心配でしたが、事前に非常勤医からの要望を聞き取るなど、入念に準備した結果、特に問題なく操作法に慣れてくれてもらっています。

具体的な機能への評価としては、レポートや文書作成の機能が充実しています。当院では患者さんの紹介や逆紹介など他施設との連絡を取り合うことが多いことから、このような機能が充実している点は有難いですね。

レートなども便利で、評価しています。また、様々な部門システムと確実に接続・連携でき、「MALL」起動中にでも他のソフトをストレスなく展開できている点を個人的には高く評価しています。

前述のとおり、当院のオーダリングシステムは独自開発したもので、当院の運用に特化したシステムであったことから、システム間の連携作業には苦労しましたが、功を奏して現在は大変スマーズな連携が実現しています。これは、パシフィックメディカル社のスタッフの技術力と献身の賜物だと感謝しています。

### ――導入作業は順調でしたか。

導入時期はコロナ禍の真っ最中で混乱も危惧していたのですが、幸か不幸か、患者数が減少していたこともあり、支障なく導入初期を乗り越えられました。その後、電子カルテシステムを運用してきましたこの2年間、大きなトラブルはなく、順調に稼働し続けており、電子カルテシステム導入は成功したと総括しています。

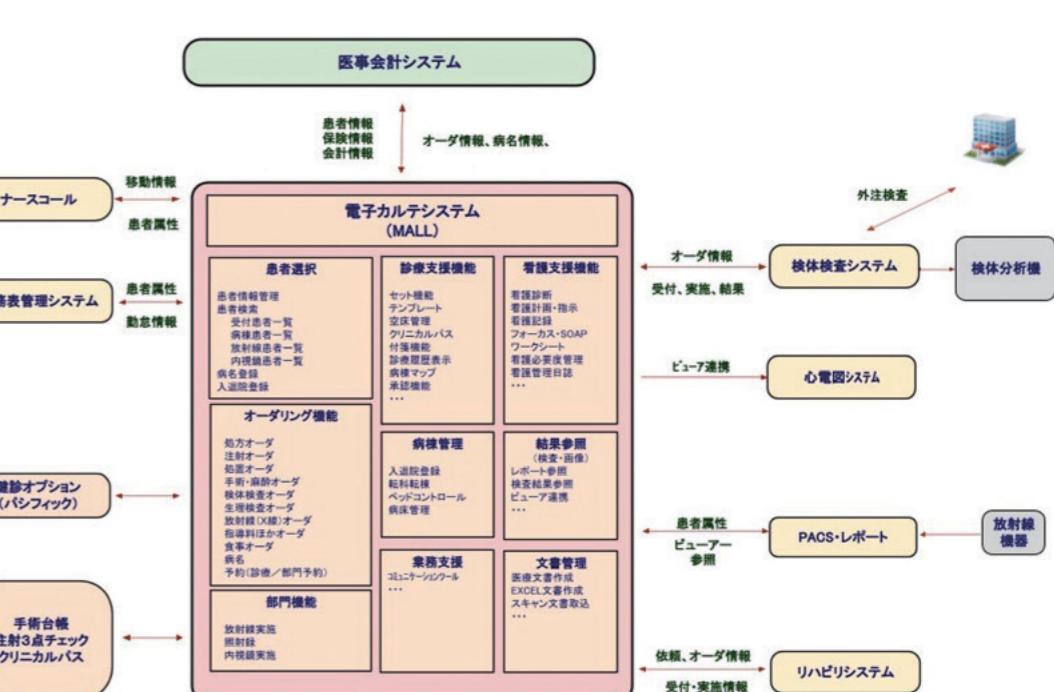
今後は、附属の元赤坂胃腸科クリニックとのシステム連携などを進めていきたいと考えています。

### ――今後の赤坂見附前田病院の展望についてお聞かせください。

先代から引き継いだ理念を忘れず、ま

に貢献する病院であり続けたいと考えています。

当院周辺には、連携している数多くの大規模病院（慶應義塾大学病院など）があります。これらの急性期医療機関と開業医の先生方との間をつなぐ病院にしています。



赤坂見附前田病院の病院情報システム構成図。電子カルテシステム「MALL」を中心に、医事会計システムや画像ファイリングシステム等と連携、診療情報の一元化を図っている。

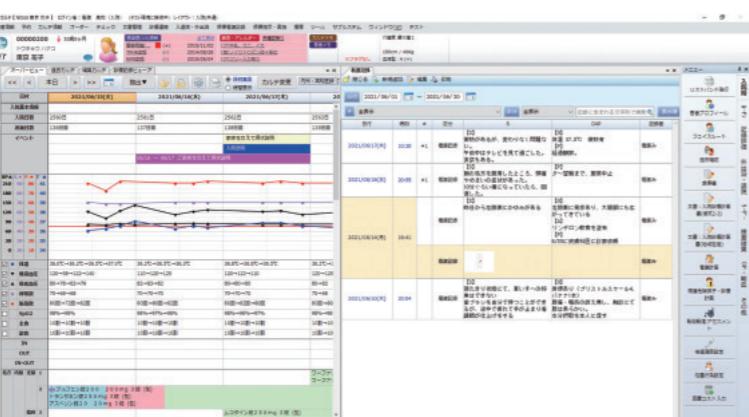
感じています。また、従来、指示などは医師が病棟で紙カルテを探して記録する必要がありましたが、電子カルテシステムでは、端末さえあればいつでもどこでも入力することができる所以、業務の効率化や、労働負荷の面でも貢献していると思います。

なお、『M A L L』への評価ですが、当院の診療に合わせて機能や画面構成が

し送りや指示、またスタッフ間の連絡も  
口頭に頼ることが多く、気を遣うことが  
多々ありました。

それが今では、患者さんの情報は電子  
カルテシステムを参照することで容易に  
収集できますし、申し送りや指示も電子  
カルテシステム上に記録が正確に残せて  
いるため、医療安全面でとても有益だと  
感じています。

「M A L L」導入について、上田氏は看護師視点からつぎのように話す。



電子カルテシステム「MALL」の入院記録画面。入院患者に関する診療情報を自由なレイアウトで一覧することができ、医療安全面でも大いに貢献している。

親身なヘンダ担当の対応力を評価  
順調な稼働とシステム改良を進める

の質向上に大きく貢献していると思つています」

「当院は、大規模な病院と異なり、部署毎の、所謂縦割りとは無縁な組織です。看護師は事務の業務を手助けしたり、医師も看護の仕事を一緒にするなど、職員全員が1つのチームとして、診療に当たっています。電子カルテシステムで情報共有ができる点は大変便利ですし、医療開発する同院にとって、有用なシステムであると上田氏は話す。

当院周辺には、連携している数多くの大規模病院（慶應義塾大学病院など）があります。これらの急性期医療機関と開業医の先生方との間をつなぐ病院にしていきたいです。

「今後は病棟の記録と入退院の管理、予約に関する連携がさらに円滑にできるよう、パシフィックメディカル社と共により使い易いものに改良していくたいと考えています」

『MALL』の導入時には、ベンダ側、つまりパシフィックメディカル社がマスターの整備をある程度行ってくれるなど、当院の要望に積極的に対応してもらい、大変助かりました。

現在も、月に1度は同社の担当者と一緒にシステムの課題や、その解決の進捗などを検討する話し合いの場を設けています。同社の担当者やサポートセンターの方も、本当に親身になつて対応してくれ

今後は、病棟の記録と入退院の管理、予約に関する連携がさらに円滑にできるよう、パシフィックメディカル社と共に、より使い易いものに改良していくたいと考えています。

## 円滑な外来業務と院内の情報共有化を実現して業務を効率化 完全予約制の外来診療にフィットした予約システムも高評価



篠崎涼奈氏に聞く

「看護師はITに慣れた若いスタッフや、電子カルテシステムの経験があるスタッフが多く、『MALL』の操作にはすぐに慣れることができました」と話す看護部の篠崎涼奈氏

赤坂見附前田病院は、外科、内科をはじめ14診療科を有し、1日150～200名の外来患者が来院する。外来部門の主任看護師である篠崎涼奈氏は、「外来における看護業務を、つぎのように話す。

「外来分野には、オペ室担当を含め6名の看護師と臨床検査技師1名が所属しています。看護師は、他施設同様、外来で医師をサポートしながら、来院した患者さんの看護に当たっています。臨床検査技師も看護チームと一緒に採血や心電図等を担当しています」

### 電子カルテシステム「MALL」 ユーザーに合わせた設定も自在

### セット組や画面調整が容易に可能

2020年6月の電子カルテシステム「MALL」導入について、篠崎氏はつぎのように話す。

「前身は1994年に設立した会員制の人間ドック施設でした。当時としては全身フルメニューの検査項目と画像データ・レポート作成や来院案内などの文書作成も効率化できました。以前のシステムでは、CTやMRI、超音波などモダリティ毎に予約画面が異なり予約時間の調整に手間取りました。また、各モダリティは保険診療の患者さんの予約もありますので、多岐にわたる

### 健診システム① 元赤坂胃腸科クリニックでは、独自開発の健診システムを運用していたが、2020年6月の電子カルテシステム導入時に「MALL」に付属する健診システムを併せて導入し、活用している。同システム導入の狙いを、小坂氏は語る。

「元赤坂胃腸科クリニックでは、独自開発の健診システムを運用していたが、2020年6月の電子カルテシステム導入時に「MALL」に付属する健診システムを併せて導入し、活用している。同システム導入の狙いを、小坂氏は語る。

### 電子カルテシステム「MALL」 スマートかつ迅速な情報伝達を実現

「当クリニックの高く評価されている点は、的確に診断し迅速にフォローアップができることです。健診結果の所見や受

人間ドックの検査を、待ち時間なくスケジュールすることに特に気を遣っています。『MALL』と連携した健診システムでは1画面上で各コースに必要な検査予約が分かりやすく表示され、予約時間の調整や検査オーダーができ、業務が大幅に効率化されました。それにより、受診者へのレスポンスも迅速になり、より親切で丁寧な受診者対応が可能となった点は、とてもよかったです」と感じています」

以前のシステムでは、CTやMRI、超音波などモダリティ毎に予約画面が異なり予約時間の調整に手間取りました。また、各モダリティは保険診療の患者さんの予約もありますので、多岐にわたる

「電子カルテシステム導入に際しては、外を担当医師から『MALL』に対する要望を聴取し、テンプレートのセット組や画面設定に関する調整を予め行いました。非常勤医からの聴取については、人数が多く、勤務日が限られていることもあり、時間を要し苦労しました。

さらに、当院外来は完全予約制なので、電子カルテシステムと予約システムとの連携には気を遣いました」

「MALL」の使い勝手について、篠崎氏はつぎのように話す。

「当院は大病院ではないので、紙カルテの方が融通が利くのではと感じる点もありますが、電子カルテシステムが情報共有の点で大きく有利なのは明白です。

当院はかかりつけ医として長年通院をする患者さんが多く、患者情報も膨大になります。診療記録のみならず、受診履歴や家族背景など、貴重な情報がたくさん詰まっています。患者さんからの相談やお問い合わせの際、情報の事前収集を行いますが、電子化によってこの作業が迅速かつ容易に行えるようになりました」

比較的若いスタッフが多く、「MALL」の操作習得は問題なかつたと篠崎氏は話す。

「看護師の多くは、他社の電子カルテシステムの使用経験を有していましたが、『MALL』はユーザーの好みに合わせた画面構成や設定ができるので、すぐに操作には

慣れました

## 従来システムとのギャップを埋め より効率的なシステム連携を図る

赤坂見附前田病院では、電子カルテシステム導入以前、独自開発の予約システムを使用していた。その変更について篠崎氏はつぎのように話す。

「従来システムの改良  
より効率的なシステム連携を図る

従来使用していたシステムは当院の運用に特化していたことから大変便利でした。その従来システムとの親和性を意識しつつ、それに劣らぬように『MALL』の予約システムも機能設計をしてもらいました。引き続き予約システムのプラットフォームアップと、それと並行して『MALL』との部門システムとの連携も、さらに深化させていきたいですね」

従来使用していたシステムは当院の運用に特化していたことから大変便利でした。その従来システムとの親和性を意識しつつ、それに劣らぬように『MALL』の予約シ

ス템も機能設計をしてもらいました。引き続き予約システムのプラットフォームアップと、それと並行して『MALL』との部門システムとの連携も、さらに深化させていきたいですね」

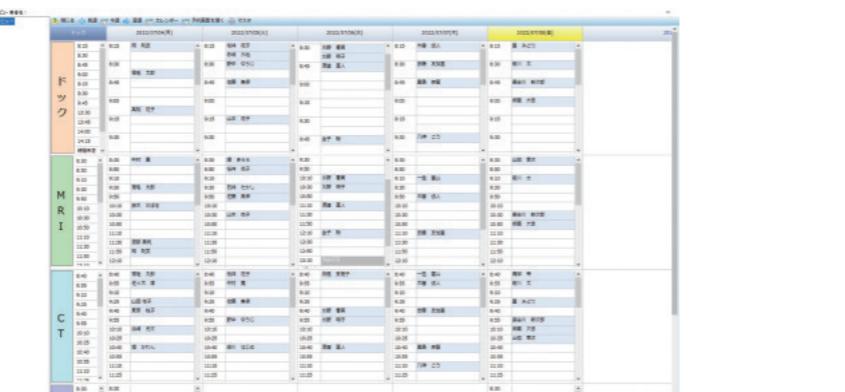
## 健診システムと電子カルテシステムの連携による相乗効果 検査予約や文書作成等、業務の効率化と高質な健康管理を実現



元赤坂胃腸科クリニック 看護部 小坂菜々美氏に聞く

赤坂見附前田病院と同法人の元赤坂胃腸科クリニックは、質の高い医療の提供を目指し、2001年にオープンした新世纪型の医療施設である。同クリニックは、消化器内視鏡検査を始め、人間ドックなどを行う自由診療のクリニックである。

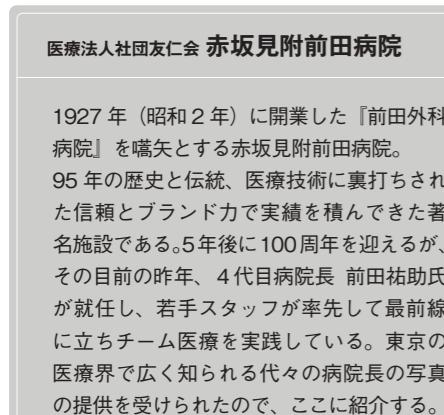
「健診システムと電子カルテシステムが一括で運用できるので、人間ドックや健診を受けた受診者の情報をシームレスに運用することができる」と話す看護部の小坂菜々美氏



健診システムの検査予約画面。CTやMRI、超音波などの検査予約を1画面上から予約することができ、業務の効率化・迅速化を実現している。

提供することが必要不可欠となります。その点、『MALL』が一体型のシステムであるということからデータ連携がスマートに行うことができ、重複した不要な検査や煩雑な受診準備は割愛され、必要な治療までがストレスなく最短で進められます。少数精銳の利点も生かし、大切な要項はフェイエストウアフェイスで行うこととも務めています」

健診システムについて、小坂氏は異なる機能のプラットフォームアップを望んでいる。「部門システムと電子カルテ及び健診システムとの連携において改善が必要な点もありますが、電子カルテシステムベンダーのパシフィックメディカル社は、保守管理や当クリニックからの要望などに親身に対応してくださるため助かっています。パシフィックメディカル社と一緒に、さらに洗練された誰でも使いやすいシステムを作り上げていきたいと考えています」



医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院

1927年（昭和2年）に開業した『前田外科病院』を嚆矢とする赤坂見附前田病院。95年の歴史と伝統、医療技術に裏打ちされた信頼とブランド力で実績を積んできた著名施設である。5年後に100周年を迎えるが、その目前の昨年、4代目病院長 前田祐助氏が就任し、若手スタッフが率先して最前线に立ちチーム医療を実践している。東京の医療界で広く知られる代々の病院長の写真の提供を受けられたので、ここに紹介する。



理事長：前田京助  
病院長：前田祐助  
住所：東京都港区元赤坂1-1-5  
病床数：59床（一般56床、人間ドック3床）